

アビスパ福岡株式会社について

令和3年6月

目 次

I 法人の概要	・ ・ ・ ・ 1
1 法人の概要	
2 組織	
II 事業報告	・ ・ ・ ・ 3
III 決 算	・ ・ ・ ・ 4
1 損益計算書	
2 株主資本等変動計算書	
3 貸借対照表	
IV 事業計画（方針）	・ ・ ・ ・ 7

I 法人の概要

1 法人の概要

(1) 法人名 アビスパ福岡株式会社

(2) 主要な事業内容

サッカーの興行、サッカースクールの運営ならびにサッカー指導者の育成およびプロサッカーチームに関する各種オリジナルグッズの販売

(3) 設立 平成6年9月29日

(4) 資本金 176,110千円 (令和3年1月31日現在)

(5) 本市出資の目的

Jリーグの地域に根ざしたホームタウン制により、本市のスポーツ文化の振興、青少年の育成並びに地域経済の活性化を目的として出資

2 組織

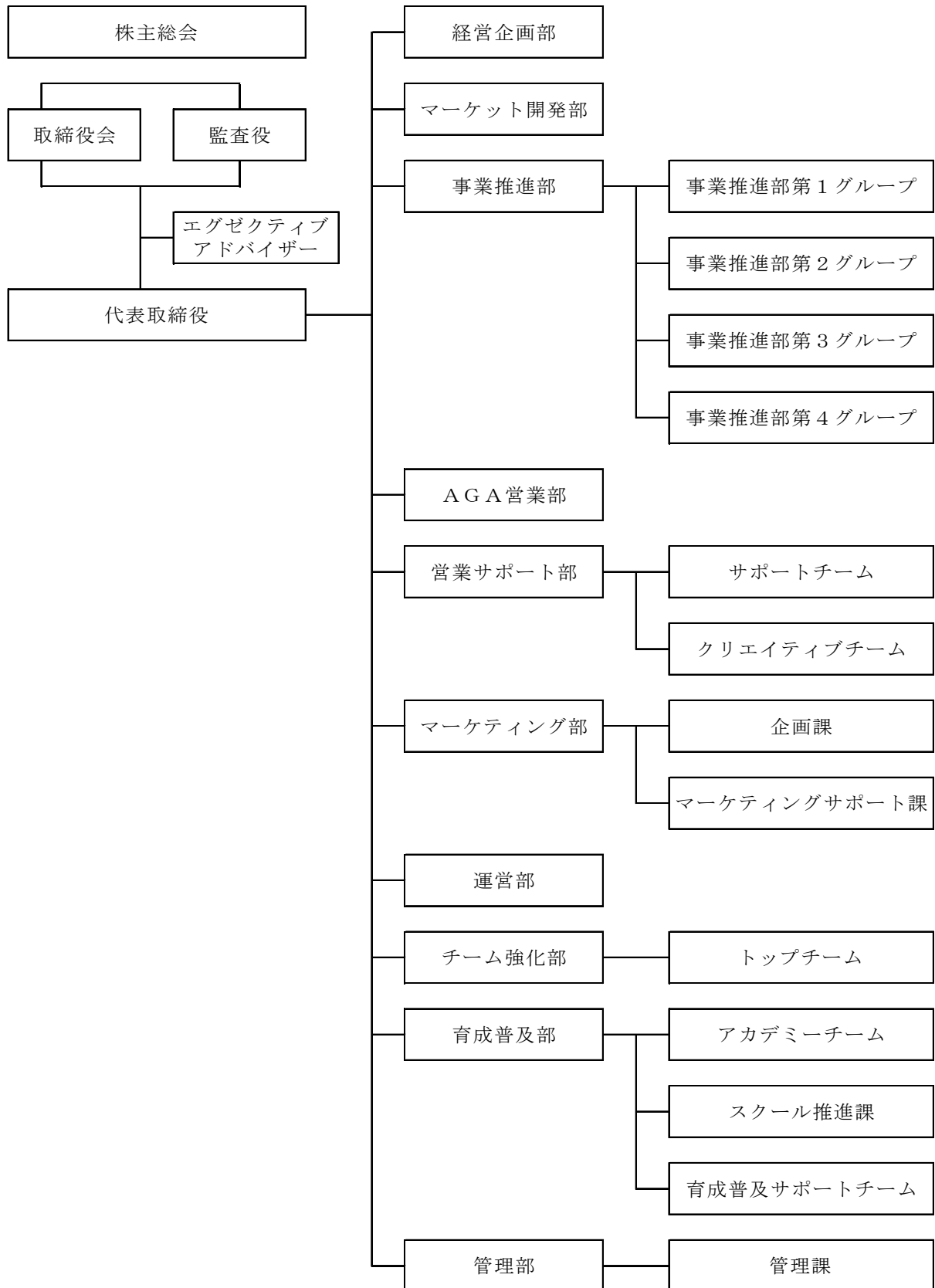
(1) 役員名簿

(令和3年4月27日現在)

役職	氏名	備考
代表取締役社長	川森敬史	APAMAN株式会社 常務取締役
取締役	吉尾春樹	株式会社システムソフト 代表取締役社長
取締役	安藤茂弘	コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社 西日本営業本部 九州地区統括部長
取締役	下川祥二	福岡市 市民局長
取締役	遠藤泰昭	九州電力株式会社 上席執行役員 ビジネスソリューション統括本部 地域共生本部長
取締役	大久保昭彦	株式会社西日本新聞社 取締役 営業本部長、企画事業室長委嘱
取締役	恒松孝二	株式会社九電工 総務部長
取締役	川原武浩	株式会社ふくや 代表取締役社長
取締役	村中悠介	合同会社 DMM.com COO 合同会社 EXNOA (DMM GAMES) CEO
取締役	渡邊誠	株式会社プロスタッフ 代表取締役 渡邊誠公認会計士事務所 公認会計士
監査役	高木富士男	株式会社福岡銀行 総務部長
監査役	岡部光章	株式会社西日本シティ銀行 総務部長

(2) 組織図

(令和3年4月1日 現在)



II 事業報告（令和2年2月1日から令和3年1月31日まで）

2020シーズン、世界中で猛威を振るった新型コロナウイルス感染症の影響で目まぐるしく日常が変化していくなかであっても、地元福岡の経済界・自治体、後援会から、クラブ経営全般に及ぶ継続的な支援をいただいているが、最終的には今期のスポンサー社数は前期の918社から836社へ減少となった。

入場料収入については、新型コロナウイルス感染症の拡大により大幅な日程の変更と無観客試合1試合を含む収容人数に制限のある中でのホームゲーム開催などの影響もあり、今期は1試合当たりの平均入場者数が前期の6,983人から3,738人とどまった。しかしながらリモート応援システムの実施などを含め、コロナ禍での制限の中できる限りスタジアムへの来場促進施策にも注力し、J2優勝のかかったホーム最終戦では8,864人のお客様にご来場いただくことができた。

チームについては、強化体制を一新し新監督を招聘して新たな体制のもとJ1自動昇格を目標としてシーズンに臨んだ。新型コロナウイルス感染症の影響で大幅な日程変更を強いられたシーズンとなり、怪我人の影響も重なった為シーズン前半戦は我慢の戦いとなったが、中盤戦以降チームの新記録となる12連勝を重ねるなどシーズン後半にかけて安定した戦いをみせ、最終的には得失点差による結果でJ2優勝は逃したものの2位でシーズンを終了し5年ぶりのJ1昇格を果たすことができた。

育成普及部門のアカデミーについては、新型コロナウイルス感染症により活動が制限されるなか、各カテゴリーでリモートによるトレーニング等を実施し活動を継続した。U-18カテゴリーが九州クラブユースサッカー(U-18)選手権大会で準優勝し、全国大会への切符を手にしたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり全国大会への出場は辞退した。また、継続して年代別の日本代表及び候補に数名が選出されるシーズンであった。スクールについては、こちらもコロナ禍で活動が制限されるなか前期のスクール生人数1,730人から今期1,432人に留まったが、スクール校は拡大を続け、チアスクールを含め29校となり、地域に密着した事業運営を継続して取り組んだ。

ホームタウン推進活動については、年間延べ24,000人を超える参加をいただく取り組みとなっている。コーチ派遣型の「アビススクール」のほか、ブラインドサッカー啓発活動や福岡都市圏と協働し健康教室等に取り組むとともに、フレンドリータウンとしては10の自治体と協定を締結する等、当クラブの経営理念である「子どもたちに夢と感動を」「地域に誇りと活力を」の実践を続けている。

こうした活動により、今期の売上高は、広告収入7億5千6百万円（対前期比8%増）、入場料収入1億4千5百万円（対前期比6%増）、その他の収入を加え、合計15億3千8百万円（対前期比2%減）となった。営業費用は、16億5百万円（対前期比9%増）となり、営業損失は2億8千6百万円、経常損失は2億8千3百万円、当期純損失は2億8千7百万円となった。

来期は広告収入、入場料収入をはじめ増収を実現する体制を構築し、クラブの経営安定化を図るとともに、J1定着を目標にチームづくりに取り組む。また、U-12からトップチームに至るまで「感動と勝ちにこだわる」Avispa Styleをさらに進化させ、アグレッシブに活動していく。

Ⅲ 決算

1 損益計算書（令和2年2月1日から令和3年1月31日まで）

（単位 千円）

科 目	金	額
売 上 高		1,538,145
売 上 原 価		1,605,081
売上総損失（△）		△66,936
販売費及び一般管理費		219,907
営業損失（△）		△286,843
営業外収益		
受 取 利 息	1	
受 取 家 賃	784	
為 替 差 益	830	
そ の 他	4,729	6,345
営業外費用		
支 払 利 息	2,219	
そ の 他	915	3,134
経常損失（△）		△283,632
特別利益		
助 成 金 収 入	12,438	12,438
特別損失		
新 型 コ ロ ナ 関 連 損 失	14,445	14,445
税引前当期純損失（△）		△285,639
法人税、住民税及び事業税		1,373
当期純損失（△）		△287,013

※記載金額が千円未満非表示のため合計額が合わない場合がある。

2 株主資本等変動計算書（令和2年2月1日から令和3年1月31日まで）

（単位 千円）

	株 主 資 本					純資産合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金	株主資本合計	
		資本準備金	その他 資本剰余金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金		
前期末残高	176,110	85,120	161,044	△353,639	68,635	68,635
当期変動額						
当期純損失(△)				△287,013	△287,013	△287,013
自己株式の処分			716		716	716
当期変動額合計			716	△287,013	△286,297	△286,297
当期末残高	176,110	85,120	161,760	△640,652	△217,661	△217,661

※記載金額が千円未満非表示のため合計額が合わない場合がある。

3 貸借対照表（令和3年1月31日現在）

（単位 千円）

科 目	金 額	科 目	金 額
(資 産 の 部)		(負 債 の 部)	
流 動 資 産	336,223	流 動 負 債	583,542
現 金 預 金	222,811	短 期 借 入 金	20,000
売 掛 金	65,160	一 年 以 内 償 還 社 債	40,000
商 品	32,077	未 払 金	41,135
貯 蔵 品	81	未 払 法 人 税 等	1,923
未 収 入 金	325	預 り 金	16,304
前 払 費 用	8,911	前 受 収 益	464,179
未 収 還 付 法 人 税	371		
未 収 消 費 税	5,119		
そ の 他	1,364		
固 定 資 産	332,556	固 定 負 債	302,900
有 形 固 定 資 産	204,122	長 期 借 入 金	230,000
建 物	195,635	社 債	70,000
建 物 附 属 設 備	71,678	長 期 預 り 保 証 金	2,900
構 築 物	55,830		
工 具 器 具 備 品	76,955	負 債 合 計	886,442
土 地	100,000		
減 価 償 却 累 計 額	△295,977	(純 資 産 の 部)	
無 形 固 定 資 産	2,160	株 主 資 本	△217,661
ソ フ ト ウ ェ ア	2,160	資 本 金	176,110
投 資 そ の 他 の 資 産	126,274	資 本 剰 余 金	
長 期 前 払 費 用	125,077	資 本 準 備 金	85,120
そ の 他	1,196	そ の 他 資 本 剰 余 金	161,760
		利 益 剰 余 金	
		そ の 他 利 益 剰 余 金	
		繰 越 利 益 剰 余 金	△640,652
		純 資 産 合 計	△217,661
資 産 合 計	668,780	負 債 及 び 純 資 産 合 計	668,780

※記載金額が千円未満非表示のため合計額が合わない場合がある。

IV 事業計画（方針）

アビスパ福岡は、「子どもたちに夢と感動を」「地域に誇りと活力を」を基本理念とし、ホームタウン活動などを通じて、地域に根ざした市民クラブを目指している。

今期は、J1定着及び今後J1で戦っていく体制づくりに加え、新型コロナウイルス感染症への対策などを図りながら、引き続き、クラブ経営の安定とチーム強化の為、広告収入及び入場料収入のさらなる増加は不可欠と考えている。

そのため、フロントの強化を目的に、ベルギー1部リーグ シント=トロイデンVVとの業務提携により顧問に迎えた同クラブCEOの立石敬之氏が強化部会議に参加し、より深くフロント業務に関わっていく。

また、クラブが目指す経営モデルの定義と実現に向けてのアクションプラン策定のため、専門の経営コンサルティング企業よりアドバイスを受けるなど、スタジアムへの来場者数の増加をはじめとした各種施策に取り組んでいく。

今後も、ホームタウンを継続し、多くの方々と関わりながら、アビスパ福岡が真の市民クラブとして、多くの市民に愛され、地域の誇りとなるよう、活動していく。